

NPO

石巻市

「ありがとう」の言葉が活動の原動力。 かけぬけた1年間。

3.11 あの時
P44 Report. 21 の続きです

川村 久美 NPO 法人いしのまき環境ネット

取材日 2012.06.14

宮城県石巻圏域の環境に関わる啓蒙教育と実践活動を通し、自然環境と生活環境が共生する社会を形成することを目的に活動に取り組む。東日本大震災後は団体の活動を一時休止し、緊急支援NGOの活動支援や避難所での炊き出し、大学生ボランティアの受け入れ、地元の人たちと一緒に活動する「お茶っこサロン」などの震災支援活動に従事した。

炊き出しを開始

2011年5月29日、EPO東北のヒアリングを受けた後にすぐ炊き出しを始めた。最初は、他の団体について行って手伝っていたけれども、人と人のつながりによって個別にリクエストを受けるようになり、次第に自分たちで避難所へ赴き炊き出し活動を行なうようになっていった。当時は道がひどい状態だったので、到着までに1時間もかかる避難所もあった。夏にはかき氷の炊き出しを行なったこともある。

活動中は「ありがとう」と言われるたびにとても嬉しかった。炊き出し活動は対面で感謝される。そのことが、パワーとなって、次の活動につながっていった。現実には美しい面ばかりではなく、嫌な思いをすることもあった。また、そうした感情を抱く自分にも嫌気がさした。活動をすれば喜ばれるけれども、複雑な面も見えてしまう葛藤はつきまっていた。

「お茶っこサロン」オープン

夏には、自分たちが道具や材料を持参して提供する形から、拠点を置いて地元の人たちと一緒に活動する形に変化し、被災がひどかった大街道南と浦屋敷地域で「お茶っこサロン」をオープンした。いつまでも無料の支援をすることに対して疑問もあり、サロンを利用する方からは200円だけお金もいただいた。

自宅で時間を持て余し寂しい思いをしている人たちが多かったのも、皆で一緒にお話ししながら手芸品作りや食事を準備するような企画をした。これまで近くに住んでいるのに顔を合わせたことのなかった人たちが出会い、地域で新しく世話役になる人が誕生し、自分たちの活動が新しいまちづくりに貢献できたと思うし、人と人をつなぐことができたと思う。

また、どこに支援が必要なのかを把握するためにしらみつぶしに一軒一軒を訪問し、家族構成や困っていることなどを聞いて、一人暮らしの高齢



者や孤立している人を探し出そうとした。時間を持て余し、不平不満を抱えている人も多かったのも、そうした人たちの話し相手になることで少しでもケアをできたと感じている。

1年を駆け抜けて、今は充電期間

大震災後の混乱から駆け足でずっと活動を行ってきたし、これからもこのペースで活動が続いていくのだろうと思っていたけれども、新年度に向けて現在は活動をお休み中だ。震災から1年が過ぎ、これまで一生懸命頑張ってきた人たちの中には、急に体調を損ねている人がとても多いように感じている。今までの調子でこれからも活動を続けていくことはできないのだと気づいた。少し休んだ後はまた新しい活動を始めたいと構想を練っている。



撮影：2011.12.25 石巻市浦屋敷 お茶っこサロン